

Core to Core プログラム 出張報告書

[出張者]

川谷 友郎

早稲田大学大学院 先進理工学研究科 生命医科学専攻

朝日研究室 修士1年

[訪問先]

ボン大学 (ドイツ)

[滞在期間]

2017年3月5日(月) ~ 2017年3月10日(土)

[概要]

ドイツのボンで2018年3月6~8日に行われた、3D Lab-Exchange Program という国際学会に参加した。本学会の主な目的は、「ナノバイオテクノロジー・化学・医学生物学・ロボティクスの包括的な関わりを深化させること」であった。以下に簡単なスケジュールを示す。

3月5日(月) 基調講演-1、ポスターセッション-1

3月6日(火) 基調講演-2、ポスターセッション-2

3月7日(水) 基調講演-3、Haus der Geschichte 見学

[総括]

私は、ポスターセッション-2にて、ポスター発表を行った。タイトルは、“Molecular analysis of the C391R mutant cereblon, identified in a family of severe mental retardation”とした。発表においては、様々な専門の方々から貴重なご意見を頂戴した。また学びとして、研究概要を基礎知識が無い方へ伝えることの難しさを体験した。これらの経験は、今後の私の研究活動に必ず生きるものであると確信している。ポスター発表に加え、人生で初の1分間のポスタープレゼンテーションも行ったが、これについても非常に自分には刺激となった。

自身の発表以外でも学びになることは多かった。本学会の目的が、異なる研究領域の交流ということもあり、普段の学会では目にすることのないような研究発表が多かった。生体内アミノ酸の種類、新規蛍光顕微鏡の開発、遺跡探索用ロボットの開発など、自分の研究とどこか関連はないかと考えつつ聞く講演は素晴らしいものであった。

基調講演では、教授の方々の色が発表にかなり出ており、とても勉強になった。発表方法については、どれが良くてどれが悪いというのは人それぞれあって良いはずだ。しかしながら、少なくとも自分のスタイルは確立すべきであると感じた。自分に自信の無い人のプレゼ

ンなんて、誰が聞きたいと思うだろうか。自分に自信を持ちながらも、常に自分のスタイルを省みることが出来るような人こそ、人々を巻き込む酸いも甘いも噛み分けたプレゼンが出来るはずだ。これらの学びは、必ず自分のプレゼンに還元されるものであると信じており、本学会に参加出来たことは貴重な経験である。

[写真]

以下に集合写真を添付する。

